

note 作品インデックス(作成日順)

t0rapa (carl) 氏の note 作品 全 14

件を作成日順に掲載します。(取得日: 2026年4月16日)

001. 哲学×AI: 哲学的思考とAIの進化から再び“意識”を考える

作成日: 2025-08-07 ♥ 3

URL: <https://note.com/car1/n/n5443f07c0613>

著者は大学時代に意識の本質について深く思索していたが、AIの驚異的な進化を目の当たりにし、「AIはもはや単なるツール」ではなく創造性に挑む存在として認識されるようになった。かつての哲学的な問い—「意識とは何か」—を改めて問い直す試みとなっている。

002. 「経験するAI」とエナクティヴィズム——知能の未来をめぐる交差点

作成日: 2025-08-07 ♥ 3

URL: <https://note.com/car1/n/n8cb0445bac18>

2025年4月、強化学習の権威による論文「経験の時代へようこそ」が発表された。AIは従来のデータ解析から「自ら世界と関わり経験を通じて学ぶ」存在へと進化しようとしている。この変化は認知科学のエナクティヴィズム思想と深く共鳴しており、知能の未来に新たな地平が開かれつつある。

003. デカルトから現代までの心の哲学史 — 現象学と分析哲学の交差点に立つ(前編)

作成日: 2025-08-23 ♥ 4

URL: <https://note.com/car1/n/n1d1e7ad0d554>

17世紀のデカルトの二元論から、カントの認識論的転回、フッサールの現象学まで、「心とは何か」という問いが時代とともにどう変化したかを検証する。現象学と分析哲学という現代哲学の二大潮流の出発点を理解することで、現代の「心」概念の基盤が明らかになる。

004. デカルトから現代までの心の哲学史 — 現象学と分析哲学の交差点に立つ(後編)

作成日 : 2025-08-23 ♥ 8

URL : <https://note.com/car1/n/ne45bbd1283e4>

20世紀後半、断絶していた現象学（ヨーロッパ）と分析哲学（英米）は、意識研究やAIの発展を契機に歩み寄りを始めた。21世紀にはオートポイエーシスやエナクティヴィズムといった新しい理論的枠組みが登場し、両派の統合を促す潮流が形成されつつある。

005. 道具から協働者へ: System 0で組み直す人×AIの思考プロセス(前編)

作成日 : 2025-09-20 ♥ 1

URL : <https://note.com/car1/n/n9ce94387fa44>

検索やレコメンド、生成AIは情報の輪郭と入り口を事前に編集する「System 0」として機能しており、カーネマンの二重過程理論のシステム1・2の前段階で働いている。拡張された心（Extended Mind）の観点からAIが「外部の道具」から「心の構成要素」へ近づく条件を検討する。

006. 道具から協働者へ: System 0で組み直す人×AIの思考プロセス(後編)

作成日 : 2025-09-20 ♥ 1

URL : <https://note.com/car1/n/na565c90d7012>

前編で示したExtended Mindの条件を踏まえ、AIが拡張認知のメリットをもたらす一方で迎合やバイアス増幅による視野狭窄の罠に陥るパラドックスを指摘する。人間の主体的思考力を保ちながらAIと協働するための「七つの設計フレーム」を提示する。

007. 「知」から「心」へ: IT技術者のための哲学思想史入門

作成日 : 2025-10-09 ♥ 7

URL : <https://note.com/car1/n/n5f30cd617f81>

哲学の探究焦点は時代とともに変遷してきたが、この変遷がIT開発における要件定義の進化と驚くほど似ていると著者は指摘する。「知識とは何か」という認識論的問いから「心とは何か」という意識の本質へと移行する歴史的流れが、現代のAI技術やシステム設計の課題と深く結びついている。

008. (改訂版) 道具から協働者へ: System 0で組み直す人×AIの思考プロセス

作成日 : 2025-11-06 ♥ 3

URL : <https://note.com/car1/n/nc8c7713110c0>

AIを「便利な道具」ではなく「認知的パートナー」として位置づける「System 0」という新しい概念を提唱する。従来のSystem 1（直感的思考）とSystem 2（論理的思考）の枠組みを超えて、AIとの協働により人間中心な思考プロセスを構築できるという主張を展開。AIアプリ開発者向けの実用的な設計原則を示す。

009. クオリアをめぐる哲学的探求: 意識の謎に迫る

作成日 : 2025-12-14 ♥ 8

URL : <https://note.com/car1/n/nd3e57c98fe37>

「赤い花の美しさ」や「コーヒーの香り」といった感覚には、単なる情報処理を超えた主観的な「感じ」が存在する。この「質感」をクオリアと呼ぶ。客観的な科学的探究に対する根本的な課題を提示するクオリアという概念について、哲学的な主要論点と対立する思想的立場を分かりやすく解説する。

010. 「私」の感覚はどこから来るのか？ — 脳科学と数学が挑む「意識」という最後の謎

作成日：2026-01-19 ♥ 5

URL：<https://note.com/car1/n/nbb758b30d31c>

「青色を見るとき、私が感じる青はあなたが感じる青と同じか」という根本的な問いから出発する。言葉では説明しがたい主観的体験「クオリア」の謎に、脳科学と数学がどのようにアプローチするかを探る。意識がいかに脳から生じるのかという哲学と科学の交差点にある最後の謎に迫る。

011. 意識の地図を歩く — 物理学から神秘まで、私たちはどこまで解明できたのか？

作成日：2026-01-20 ♥ 9

URL：<https://note.com/car1/n/n640b4e4fbe2e>

「読んでいる」という主観的体験がいかに生成されるのかという問いを中心に展開する。脳という物質から意識が生じるメカニズムは現代科学の最大の謎の一つ。デイヴィッド・チャーマーズ等の哲学者による問題提起を含め、物理学から神秘領域まで多角的な観点から意識の本質に迫る。

012. あなたの「青」と私の「青」は同じ？ — 「クオリア周期表」を作る挑戦が始まった

作成日：2026-02-11 ♥ 2

URL：<https://note.com/car1/n/n872012f34a4d>

統合情報理論（IIT）と圏論という二つの手法を踏まえ、個人差のある「色の見え方」という問題を通じて意識の本質に迫る。「クオリア周期表」という新しい概念的枠組みを構築し、意識を「情報統合の度合い」と「関係性の網」という観点から捉え直す挑戦を展開する。

013. 機械に『環世界』は宿るか？ : ユクスキュルと4E認知から考える次世代AIの設計図

作成日 : 2026-03-19 ♥ 2

URL : <https://note.com/car1/n/n13480d742ed8>

現在のAIは統計的な単語の関連性にしか基づかず、身体を通じた感覚経験の結びつきが欠落している。哲学者ユクスキュルの「環世界」概念と4E認知科学（身体化・環境埋め込み・拡張・自己遍在的認知）を援用し、機械に主観的な現実認識を備えさせる次世代AI設計の可能性を探る。

014. 「心は脳の中だけにある」のか - - 身体化された認知から考える、身体と世界の関係

作成日 : 2026-04-16 ♥ 2

URL : <https://note.com/car1/n/ne57c052c3301>

心は脳内で完結するのかという「水槽の中の脳」の思考実験から出発し、『現象学的な心』第7章を手がかりに身体化された認知について考察している。直立二足歩行や「生きられた身体」の概念、さらに道具や他者へと拡張される心のあり方を探り、心身二元論を乗り越えて身体と世界の間を捉え直す試みとなっている。